

# 子どもの主体性を引き出す教師の関わりと授業の検討

## － 体験活動に着目して－

学籍番号 169956 赤嶺 佳彦

主指導教員 家近 早苗教授

### 1. 課題と目的

実習校は、子どもが主体的に学ぶ場である体験活動が形骸化していたり、子どもたちの「体験」が不足していたりするなどの課題を抱えている。そこで本研究の目的を、(1) 実習校の体験活動を活性化させること、(2) 体験活動において、子どもの主体性を引き出す教師の関わりと授業について検討することとした。

### 2. 研究の方法

#### 研究Ⅰ「体験活動を活性化する方法の検討」

【目的】実習校の既存の実践や教育環境から、体験活動を活性化させるための方法を検討する。

【方法】実習校で行なわれている体験活動（1教科2領域）を系統表にまとめ、各学年でどのような体験活動が行われているのかを把握する。系統表をもとに、学年ごとの取り組み内容の傾向や、実施時数などについて分析し、体験活動の活性化に向けた方法を検討する。

【結果・考察】系統表で実践を整理した結果、中学年において体験活動が非常に少なく、「生活科」から「総合的な学習の時間」に移行する中で、子どもの学び方の重点を「体験」から「調べ学習」に移行していることが見てとれた。また、校内学習園が中学年以降に十分活用されていないことも明らかになった。そのため、中学年において体験活動を充実させることと、校内学習園をより授業で活用しやすい場所に改修することを体験活動を活性化する方法とした。

#### 研究Ⅱ-1「体験活動において子どもの主体性を引き出す教師の関わり方の検討」

【目的】子どものビオトープ造成活動（以下、「ASBプロジェクト」）において、「子どもの主体性を引き出す教師の関わりがどのようなものなのか」を明らかにする。

【方法】ビオトープ造成活動において、特に子どもの主体性が引き出された12事例から、その前後で教師がどのような関わりを行っていたのかを明らかにした上で、子どもの主体性を引き出す教師の関わりがどのようなものなのかを検討する。

【結果・考察】「ASBプロジェクト」は活動の内容や場面から、4つのプロセスをたどっていることがわかった。それぞれの場面で明らかになったことは次の通りである。

「実態把握場面」は、教師が、子どもが自由に活動できる機会を設定した上で、子どもがどのような活動をするのかを観察し、把握する場面であった。子どもの主体性を引き出す体験活動を展開する上で、子どもの実態把握が非常に重要であることが理解できた。

「課題提示場面」は、教師が子どもに協力を求めるような関わりが見られる場面であった。次の「活動場面」において子どもが主体的に活動するには、この「課題提示場面」で、教師がどのように子どもに課題を提示するのかがとても重要であることが理解できた。

「活動場面」は、教師が、子どもに自分自身の行動を客観視させるような関わりを行って

いる場面であった。また、外部の専門家や他学年の子どもの関わりを促進させることで、活動を活性化させるような教師の関わりも見られた。教師の子どもへの直接的な関わりと同時に、活動の枠組みに「しかけ」を盛り込むような間接的な関わり的重要性も理解できた。

「振り返り場面」は、教師が、子どもたちの活動の価値や頑張りに共感し、評価するような、心情面での関わりが多く見られ場面であった。子どもの活動に教師自身が参画し、丁寧に見守ってきたからこそできる教師の活動への関わりと言える。

#### 研究Ⅱ-2「子どもの主体性を引き出す体験活動の授業の検討」

【目的】子どもの主体性を引き出す体験活動の授業について検討する。

【方法】子どもの主体性が引き出された12事例から、教師の関わりについて抽出し、意味内容に従って整理したものを概念化する。それらをさらにカテゴリーに分け、実際の授業でどのように組み込むのかを検討する。

【結果・考察】子どもの主体性が特に引き出された12の事例から、教師の関わりを72項目抽出した。抽出した72項目の教師の援助を意味内容に従って整理し、「子どもの主体性を引き出す教師の関わり16概念」を作成した。それらをさらに9つのカテゴリーに整理し、「ASB体験活動授業モデル」の展開としてまとめた。

#### 研究Ⅲ「体験活動において子どもの主体性を引き出す『ASB体験活動授業モデル』の検討」

【目的】「ASB体験活動授業モデル」を活用した体験活動の授業を実施し、子どもの主体性と、子どもの主体性を引き出す教師の関わりとの関連について検討する。

【方法】授業の約2週間前に、子どもの「主体性尺度」のみの質問紙調査を実施する。次に、「ASB体験活動授業モデル」を活用した指導案を基に授業を行う。実践終了直後に、子どもの「主体性尺度」と、「教師の関わりに対する子どもの評価」を質問紙調査として実施し、その結果を基に検討する。

【結果・考察】取り組んだ2つの授業とも、実践後の「主体性尺度」得点は実践前に比べ有意に高かった( $t(53)=2.45$   $p<.05$ )。また、授業前の「主体性尺度」得点の低い群での上昇幅が大きく、「ASB体験活動授業モデル」の教師の関わりは、主体性の低い子どもたちに与える影響が強いことが考えられる。今後は、主体性が低下傾向にある高学年を中心に授業実践を行い、検討を重ねる必要がある。

### 3. 総合考察

本研究を通して、報告者は、実習校において体験活動の拠点とも言える学習園にビオトープを造成し、それを活用することで体験活動の活性化を図った。そして子どもの主体性を引き出す体験活動において意図的な教師の関わり的重要性を見出した。

今後は、体験活動という枠組みだけでなく、それぞれの教科・領域の特性に応じて、子どもの主体性を引き出す教師の関わりについて検討していく必要がある。

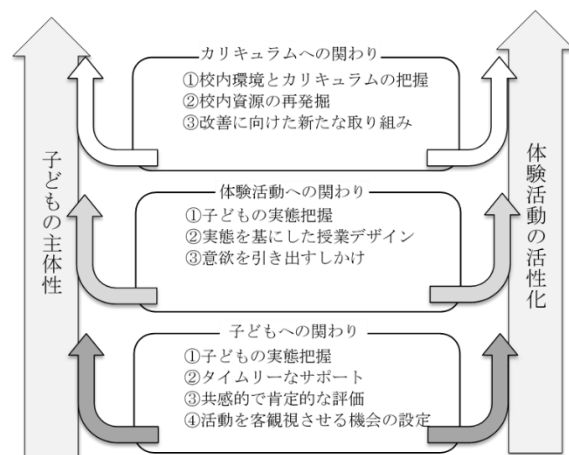


図1 子どもの主体性を引き出し、体験活動を活性化させる教師の関わり